

図画工作 1年C組	キラキラワールド	北山成美
----------------------------	-----------------	-------------

1 題材設定の理由

(1) 本実践の主張点

私たちの生活の中には、包装紙やリボン、アルミホイル、モール、スパンコールなどキラキラしたものがたくさんある。キラキラしたものを集めたり、並べて眺めたりして、色や形の美しさとは別に、キラキラしたものの独特のきれいさや魅力があることに気づかせたい。そうしてキラキラっていいなあとか、こんな感じというふうに、自分なりに感じて楽しませたいと考えた。

そうして、キラキラしたもので遊んでいるうちに、自然と表現活動が生まれてくるだろう。低学年の子どもたちは、好奇心旺盛で思いつきで活動するところがあるが、だからこそ活動がどんどん広がっていくと考えた。1Cの子どもたちは、1学期に取り組んだ紙を切ってつなぐ造形活動においても、夢中でやり続ける集中力や、遊びの場面で積み木を使って「ピタゴラスイッチ」と名前を付けて新しい遊びを考えたり発想が豊かである。

そこで、本題材の「キラキラワールド」では、子どもの意識にそって活動をみとっていききたいが、子どもたちの欲求は平面から立体へ、小さなものから大きなものへとひろがっていくのではないかと考えた。また、身近にあるいろいろなものをキラキラしたものでおおってみたらどうだろうか。いつも見ているお菓子の箱やプリンのカップがまた違って見えてくる。そこから、感じ、また表し、表したものから感じていく学びの連鎖がうまれてくるのではないだろうかと考えた。さらに机やイスなどもキラキラしたものでおおったら、いつもの教室がキラキラワールドに変わっていき、子どもたちが楽しみながらどんどんキラキラの世界に引き込まれ、ダイナミックな表現活動を展開していこうと考え本題材を設定した。

(2) 教科提案とのかかわり

図画工作科研究テーマ

“感じる” “表す” 学びの連鎖 ～自分らしい表現を求めて～

図画工作科の造形活動は、主体性なくしては存在しない。個々の主体的な活動の過程において「創造的に思考する力や豊かに表現する力などの主体的な能力」が育まれていくものである。子どもたちは、表現活動の過程で様々な思考し、「自分らしい表し方」を求めていこう。「自分らしい表し方」ができたときの「つくりだす喜び」は大きいのである。子どもたちが「自分らしい表し方」を意識する場面として、次のようなものがあると考えた。

- 題材に出合ったとき、感じたことや経験したことをもとに自分なりの発想やイメージをもつ。
- 材料やその組み合わせを考えたり、つくり変えたりしながら、試行錯誤する。
- 友達の表現のよさやおもしろさに触れ、自分と比べたり刺激を受けたりして、自分の表現を見直す。
- 自分の発想やイメージにあった材料や用具を考える。

本題材では、子どもたちが表現活動を進めていくことが、まさに学びの連鎖になっている。キラキラから感じるものを表し、表したのからまた感じというふうに分の中でも連鎖がおきている。また、友達のつくっているものを見て、表現のよさやおもしろさに気づき、そこから思いうかんだものをつけたしたりして、またつくるというようにここでも学びが連鎖していこう。また、友達の表現や活動をみることで、自分との違いに気づき、感じたことをいいあったり、いいところを認め合ったりして、互いのまなざしが響き合っていくと考えた。

2. 題材目標

- ◎ いつもと違ったものの見方を感じとる。
 - ・ キラキラしたものを集めたり、よさに気づく。
 - ・ 自分が表したいものを思いついたり、工夫したりして楽しむ。
 - ・ 自分や友達の表現や活動のよさを見つけたり、感じとったりする。

3. 題材計画（全8時間：本時7／8）

第1次	キラキラっていいな	…2時間
第2次	第1時 キラキラがいっぱい	…2時間
	第2時 キラキラになったよ	…2時間
	第3時 キラキラワールドできたよ	…1時間（本時）
第3次	キラキラワールドのたんけん	…1時間

時間	子どもの活動の流れ	教師の役割
第1次	<ul style="list-style-type: none"> ・ キラキラしたものを集める <li style="padding-left: 2em;">並べる <li style="padding-left: 2em;">眺める ・ キラキラから感じたことを話す ・ アルミホイルと出合う。 ・ アルミホイルを丸めたり、棒状にしたりいろいろな形にして楽しむ。 	家からキラキラしたものを持ってきたり、教室に用意しておく。

<p>第2次 第1時</p>	<p>キラキラからイメージしたものを発表する。</p> <p>自分のつくりたい世界を、色画用紙に平面的に表現する。</p> <p>自分の表現した世界をお話する。</p>	<p>自由に発表させ、これは空のもの、これは海、野原や草原にあるものというふうに、場所を特定すると、そこにあるものをつくりやすい。</p> <p>お話の中で自分なりの思いを友達に聞いてもらい、今度はどうしたいか思いをもっとふくらませていく。</p>
<p>第2時</p>	<p>前時の表現活動のお話の続きや、キラキラでもっとやってみたいことを話す。</p> <p>平面では表しきれないものを立体で表現する。</p> <p>箱や空き容器にアルミホイルをおおったりしながら、立体的に表現していく。</p> <p>友達と見せ合いながら、いいところをほめたり、材料を交換しあったりして表現していく。</p>	<p>壁面には、平面的なものを飾り、立体的なものもつくっていき、次に空間をもっとキラキラさせようという意識につながるようさせたい。</p>
<p>第3時 (本時)</p>	<p>今までの表現活動を振り返る。</p> <p>1Cをキラキラワールドにしよう。</p> <p>教室をキラキラいっぱいキラキラワールドに変身させる。</p> <p>机やいすもキラキラさせてみたい</p> <p>オルガンをキラキラにしたら、出てくる音はどんな音かなあ</p> <p>キラキラになった教室をみて、思ったことや感じたことを発表する。</p>	<p>自分や友達の表現活動の気に入っているところや、まだやりたいことを発表させ、空間に目を向けさせる。</p> <p>さらに教室をキラキラさせるためにはどうしたらいいか考えさせる。</p> <p>子どもたちの意欲が高まるような材料や場所を用意する。</p> <p>活動が進まない子には、友達の活動をみたり、話を聞いたりして、やりたいことをはっきりさせていく。</p>

第3次	キラキラワールドの気に入っているところ、工夫したところを発表する。 いつもとどんなに感じが違うのかなあ どこがすきかなあ	自分や友達の表現のいいところを見つけさせる。 キラキラのよさにたっぷり浸らせたい。
-----	--	--

4. 題材の考察

(1) 主張点とかかわって

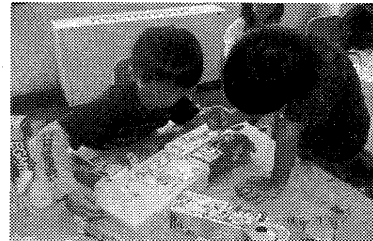
全8時間の平面から立体、さらに活動場所を教室から中庭へと移してのキラキラワールドでは、子どもたちは充分キラキラを感じ活動できた。教室の中には自分や友達の表現したキラキラしたものがいっぱいあり、みんなのつくったものを教室の外に並べてみて、光に当たると一層キラキラしていた。町みたいといった子もいた。本時では藤棚をクリスマスツリーに見立てて飾りつけをしたり、大きなアルミシートを使ってピラミッドをつくったり、自分なりのキラキラワールドをつくっていたようだ。



(2) 互いのまなざしが響き合う姿とは

本実践での1年生の子どもたちのまなざしの響き合いは、友達の表現を見ていいなあと感じたら、自分の表現に取り入れたり、いっしょに表現活動をしていくことであろう。

右の写真は、一人ずつつくろうとしていたロボットをグループの子どもたちがおもしろいと感じ、いろいろとアイデアを出していっしょにつくっている場面である。



友達と二人でキラキラマンションをつくった子は、活動を終わっての作文で「二人でやったからこそいいのができた。自分一人ではとてもできなかった。」と二人でいっしょにやってよかったと感じていた。

5. 成果と課題

本実践では、子どもたちはキラキラの魅力を充分に感じ、キラキラ素材を使って次々とやりたいことを思いつき、表現活動を続けていった。活動が教室から中庭へとひろがっていき、周りの藤棚や木々に飾りつけをしたり、ダンボールと大きなアルミシートを使ってダイナミックな活動へとひろがりが増えてきた。また、友達といっしょにすることで一人ではできないようなことができた成就感を味わうことができた。

一方、活動場所をひろげたり、新しい素材を取り入れても活動があまり変わらない子どもたちもいたという課題も残った。